ロードマップ

1. 総合交通結節点の形成(駅前広場の改修・改築)

■バス・タクシー・自家用車と歩行者を分離した駅前広場の整備

- ・国の主導及び県・市の連携により、駅前広場を改修する。
- ・1階にバス・タクシーの発着機能,市民が利用しやすい一般車の送迎ス ペースを確保し、周辺道路の混雑解消など交通環境を総合的に改善する。
- ・新たに創出される交通ターミナルや既存の道路空間を活用し、次世代交 通システムを視野に入れた実証実験を実施する。



デッキ下(1階)交通ターミナルの 将来イメージ(※透過図)

デッキ上(2階)広場の将来イメージ

2. デッキ空間の創出と先進的な活用

■交通ターミナル等と一体構造となるデッキ広場の整備

・国の主導及び県・市の連携により、交通ターミナル等と一体構造とな るデッキ広場を2階レベルで整備する。1階を車系広場、2階を歩行 者系広場とし、歩行者とバス・自動車とを分離する。

■賑わい創出につながる広場空間の利活用

・新たに創出された広場空間を、市民や観光客が自然に集い、イベント が開催される憩いと賑わいの空間として、活用を図る。

3. 呉駅の南北一体の玄関口の形成

■ J R 呉駅の橋上駅化

- ・国・県・市・JR西日本の連携により、JR呉駅の橋上駅化に着手する。
- ・駅の南北を2階デッキレベルでつなげ、モーダルコネクトの強化と回遊性向上の起点となる駅の南北 一体の玄関口を形成する。

~5 年

4. 呉駅の防災拠点機能の整備

■災害時活動拠点の機能整備

・新たに創出するデッキ空間等を、災害時には、一時的な避難場所や帰宅 困難者等の受入れ空間、情報発信等を行う災害支援の活動拠点として 活用できるよう、防災性能の向上を目指した機能整備や運用を図る。

■災害時の広域的な交通ネットワーク拠点の機能整備

災害時に地域間・都市間を連絡する交通ネットワーク拠点として、緊急 輸送バス、緊急輸送船など代替交通の発着機能の強化や、情報提供の 充実を図る。



情報発信のイメージ

5. 複合施設の整備による賑わいとまちなか居住の推進

■駅前の賑わいを創出する複合施設の整備

- ・旧そごう呉店跡地を活用し、官民連携により、交通ターミナルと一体と なった複合施設を整備する。飲食・物販を始めとする「商業・賑わい 機能」、まちなか居住を推進する「居住機能」に加え、民間開発事業 者のノウハウやアイデアを活かしながら、宿泊機能や子育て支援機能 など、駅利用者や市民の利便性に資する機能の導入を検討する。
- ・民間開発ニーズの動向や関係者との協議を通じ、そごう呉店跡地と隣接 する公有財産や民間財産について,活用可能性を検討する。



複合施設のイメージ

6. アーバンデザインセンターによる「公・民・学」が連携したまちづくり

■アーバンデザインセンターの設立

・現在の「KUREスマートシティコンソーシアム」における活動を母体 に,「公・民・学」が連携してまちづくりの課題を解決していく組織 として、アーバンデザインセンターを設立する。



「公・民・学」連携のイメージ

複合施設のイメージ



Ⅲ. 呉市全域での連携強化



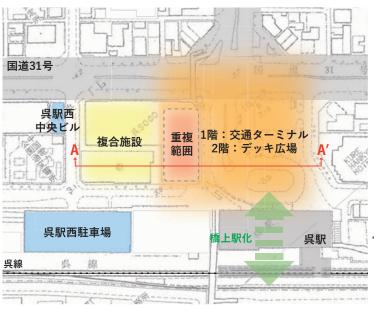
複合施設の低層部のイメージ



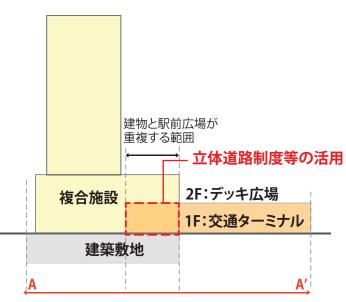


1階交通ターミナルのイメージ

【配置イメージ】



【断面イメージ】



1 呉駅南北のモーダルコネクトの強化

■呉駅の南北をつなぐデッキの延伸整備

- ・国の主導及び県・市の連携により、呉駅から呉港までを結び、将来の次世代モビリティの動線としても 機能するデッキを延伸整備する。
- ・併せて, 地域内の土地活用について, 交通事業者等とともに検討する。

2. 交通結節拠点である呉駅と呉駅周辺各地の連携強化

■市中心部の回遊性向上

・ 呉駅から、れんが通りなどが立地する北側市街地エリア、高い集客力を持つ大和ミュージアム等が立地する宝町エリアとの回遊性の向上を 図りながら、中長期的な周辺開発の起点として位置付ける。

■デッキ上での次世代モビリティの運行

・デッキ上は小型の次世代モビリティや緊急車両等が乗り入れることで, 地域内におけるデッキ広場の拠点性を強化する。



次世代モビリティ(小型)のイメージ



3. 呉駅周辺の防災力の強化

■官民連携による地域防災力の強化

- ・市民や地域関係団体,民間企業など,多様な主体との連携により, 呉駅周辺地域の防災力を強化する。
- ・避難が長期化する場合を想定し、滞在施設や備蓄の確保等に関し、 複合施設の運営事業者を始めとする地域の民間事業者等と連携し、 防災体制を強化する。

■次世代モビリティの活用を見据えた先進的な防災機能の導入

・非常電源機能を有した次世代モビリティ(燃料電池自動車:FCV) の導入により、災害時に呉駅周辺を臨時の電力供給基地として運用す る。

複合施設の 運営事業者等 近隣の 事業者 地域に根差した 各種の団体 多様な主体の 大学等 学術機関 ・遊難が長引く場合の一時滞在施設の確保 ・ 備蓄の確保

官民連携の防災体制のイメージ

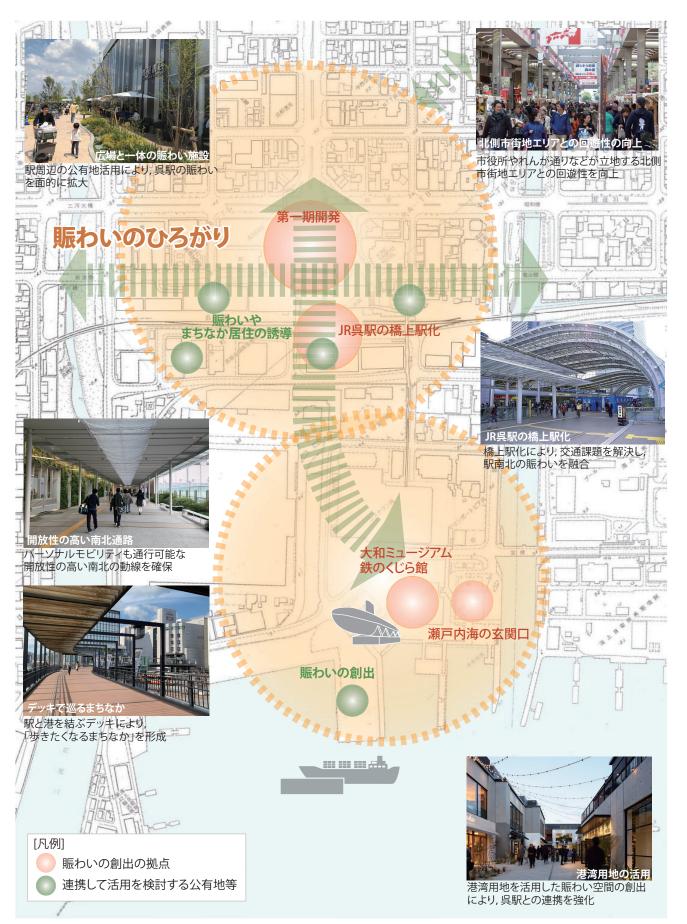
4. 橋上駅を核とした周辺開発の誘導・推進

■駅周辺土地を活用した都市機能等の最適化

- ・橋上駅を核に、国・県・市・JR西日本の連携により、周辺の低未利用地を有効活用し、まちなか形成に 必要な都市機能等の最適化を図る。
- ・第1期開発による交通ターミナル、デッキ空間、複合施設との相乗効果により、コンパクトシティ形成の 核とする。

■官民連携による民間開発の誘導・推進

- ・地域内の市有財産を有効活用しながら、連鎖的な民間開発を誘導し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」(ウォーカブルシティ)を形成する。
- ・周辺開発において、国・県・市の緊密な連携、民間活力を最大限に引き出すための制度支援の実施など、 官民連携により、効果的に事業を推進する。



1. 交通まちづくりによる呉市全域の連携強化

■呉市全域における未来志向の「交通まちづくり」を軸としたスマートシティの実現

・次世代BRTや自動運転車両の導入により、呉駅周辺地域と広島市・広島空港等を結ぶ 「都市間アクセス」や斜面地及び島嶼部を含む「市内の移動」について高齢者、子育て 世帯、観光客などの多様なニーズにこたえる交通まちづくりを軸としたスマートシテ ィを実現する。

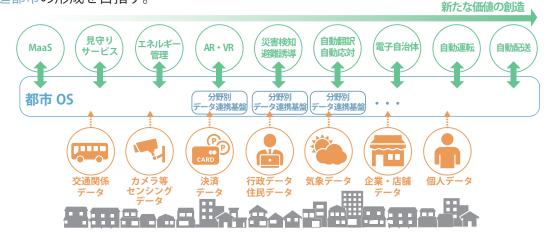


目的地に応じた最適な次世代モビリティを活用

2. 呉駅周辺を起点としたスマートシティの実現

■人間中心の超スマート社会を実現する持続可能な課題解決先進都市の形成

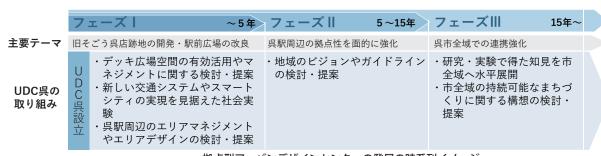
・呉駅周辺を起点として、交通まちづくりの取組等を端緒に、健康、環境、観光など様々な 分野でスマートシティの実現に向けた先駆的なサービスを展開し、持続可能な課題解決先 進都市の形成を目指す。



3. アーバンデザインセンターの市域内連携によるオール呉のまちづくり

■公・民・学が連携したまちづくりを市全域に水平展開

・アーバンデザインセンターと市内の各種団体が連携を深め、公・民・学によるまちづ くりの取組を市全域に拡大させる。公共空間の有効活用や新たな交通システムの検討 ・提案、スマートシティに関連する実証実験など、呉駅周辺地域における活動で得た 知見を基に、市民、学術機関、民間企業、公共が一体となって、市全域におけるまち づくりに取り組むことで、多世代・多主体の交流や新たな価値の創造を目指す。



拠点型アーバンデザインセンターの発展の時系列イメージ



呉市内の広幅員の道路

長距離輸送にも対応可能な大型 バス等の自動運転化による隊列 走行により、呉市と周辺都市をつ なぐ広域ネットワークを形成

電子自治体

情報通信技術(ICT)の活用により 市民の事務負担の軽減や利便性 の向上, 行政事務の簡素化・合理 化を実現



呉市内の観光地の情報をARコ ンテンツで発信, 観光客が各地 の歴史・文化を体感できる観光 システムの活用

観光型MaaS

観光客が、鉄道からバス、タクシ ー, シェアカー, シェアサイクル といった2次交通へとシームレ スに乗り継げるシステムの活用